

# EA21 環境活動レポート

2018年度版

《2018年2月～2019年1月》



株式会社 石崎製作所

発行日：2019年3月10日

作成：高田政行・野上英明



株式  
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

## I 事業活動の概要

事業所名： 株式会社 石崎製作所

代表取締役： 石崎 一徳

所在地： 本社  
東京都台東区今戸1丁目5番19号  
TEL03-3871-1861 FAX03-3874-8620

環境管理責任者： 高田 政行

環境事務局： 野上 英明

連絡先： TEL:03-3871-1861 FAX:03-3874-8620  
e-mail:nogami@ishizaki-ss.com

事業概要： 金属・加工金属製品等製造業

事業規模： 資本金 1,000万円

社員数 34名

事業所数:2力所

本社  
東京都台東区今戸1丁目5番19号  
TEL03-3871-1861 FAX03-3874-8620

茨城工場  
茨城県小美玉市部室1199-12  
TEL0299-48-0273 FAX0299-48-0388

対象範囲:全組織、全事業所



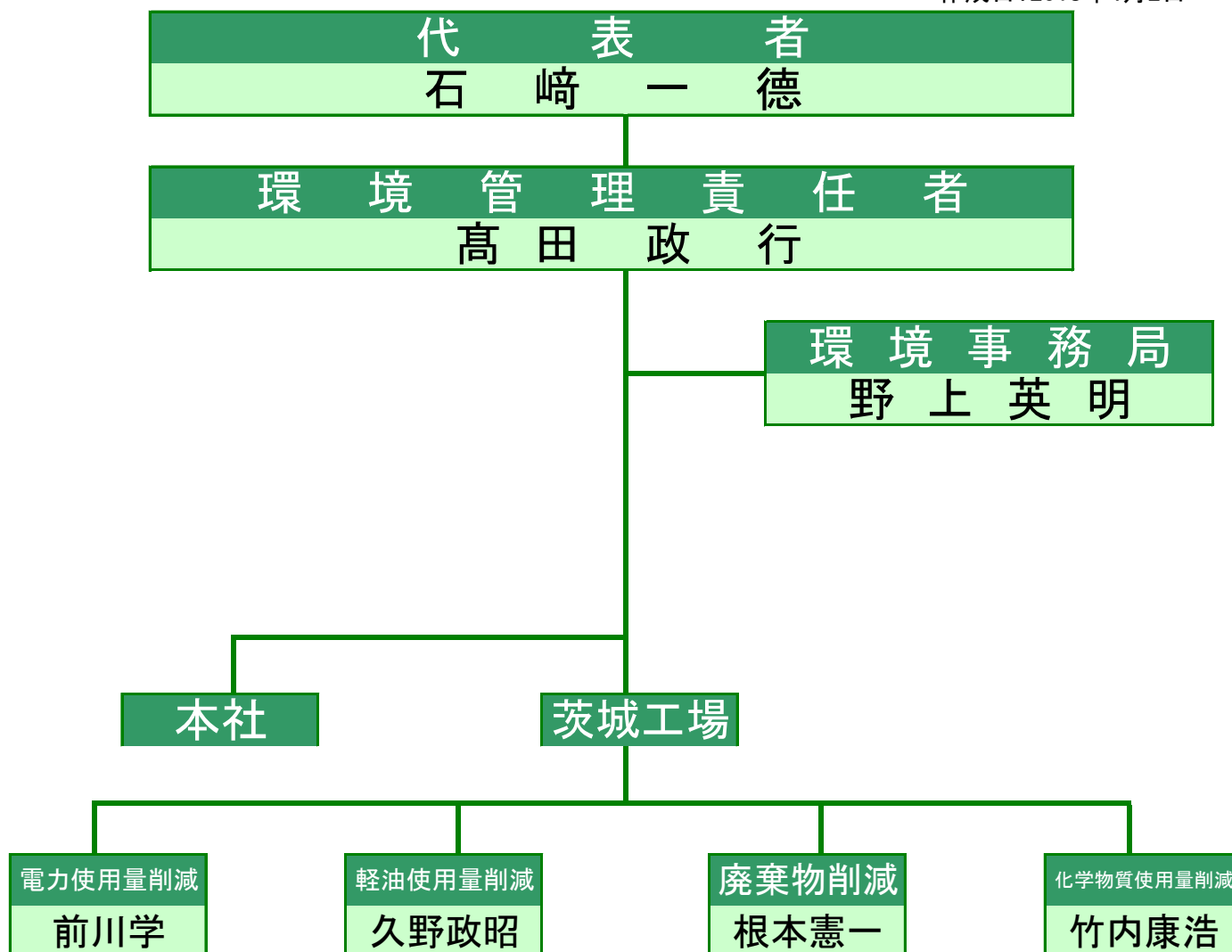
株式会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

# 株式会社石崎製作所 環境経営組織図

作成日：2018年4月2日



代表者：	基本方針の策定、見直し及び全従業員への周知
	環境管理責任者の任命
	代表者による全体の取り組みの評価と見直し
	環境活動レポートの承認
環境管理責任者：	EA21の統括、代表者への報告。EA21環境会議実施、環境活動レポートの作成
環境事務局：	環境管理責任者の補助。EA21の維持、管理、データ集計。
電力使用量削減担当者：	削減の為の方法の検討。
軽油使用量削減担当者：	軽油使用量の集計、報告。削減の為の方法の検討。
廃棄物削減担当者：	削減の為の方法の検討。
化学物質使用削減担当者：	科学物質使用量の集計、報告。削減の為の方法の検討。



株式会社 石崎製作所  
東京都台東区今戸1-5-19  
tel: 03-3871-1861  
fax: 03-3874-8620



## Ⅱ 環境保全方針

# 環境保全方針

### 《 基本理念 》

(株)石崎製作所は事業活動が地域及び次世代の環境に及ぼす影響を考え、環境にやさしい製品作りに重点を置き、得意先様ひいては社会に貢献することを目標とし、環境保全に努めるものとする。

### 《 基本方針 》

1.次の環境保全の重要項目に対して環境目標を設定し取組み、必要があれば見直しを行います。

- ① 二酸化炭素排出量削減(電力、燃料消費の削減)
- ② 廃棄物の排出抑制と適正処理(一般廃棄物及び産業廃棄物排出量の削減)
- ③ 化学物質使用量の削減
- ④ 水使用量の削減
- ⑤ 環境に配慮された製品の製造
- ⑥ 5S活動による社員の意識改善

2、環境関連の法規則、条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。

3、この環境保全方針を全従業員に周知し環境教育活動を推進します。

平成30年4月2日

株式会社 石崎製作所  
代表取締役 石崎一徳



株式会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

## Ⅲ 環境目標と実績

## ① 目標達成状況

※基準年は2017年2月～2018年1月

## 《 全 社 》

取り組み項目	基準年(2017年度実績)	2018年度目標	2018年度実績
CO2排出量削減 ①+② (CO2) (kg-CO2)	53,189	52,657	51,947

## 《 本 社 》

取り組み項目	基準年(2017年度実績)	2018年度目標	2018年度実績
ガソリン燃費向上(km/ℓ)	21.1	14.0	14.0

※車種変更による目標変更になりました。

## 《 茨城工場 》

取り組み項目	基準年(2017年度実績)	2017年度目標	2017年度実績
電力消費量の削減(kWh)	71,227	71,227	74,922
軽油燃費の向上(km/ℓ)	9.1	9.1	9.2
一般廃棄物の削減(40ℓ袋)	1,800	1,800	1,940
水使用料削減(m <sup>3</sup> )	213	203	268
化学物質使用量の削減(kg)	100	100	275

## ② 中・長期目標

※基準年は2018年2月～2019年1月

取り組み項目	2018年度(基準年度)	2019年度目標	2020年度目標	2021年度目標
①電力消費量の削減(kWh)	74,922	1%減	1%減	1%減
ガソリン燃費の向上	14.0km/ℓ	1%増	1%増	1%増
軽油燃費の向上	9.2km/ℓ	1%増	1%増	1%増
水使用量の削減(m <sup>3</sup> )	268	1%減	2%減	3%減
一般廃棄物の削減 (40ℓ袋)	1,940	1%減	1%減	1%減
化学物質使用量の削減(kg)	275	1%減	1%減	1%減
環境配慮製品の提案(件)	1件	1件	1件	1件

※排出係数は0.474Kg-CO2/kwh

※環境目標、活動計画経営環境の変化に応じて随時改定可能とする



## IV 主要な環境活動計画の内容

- ①電力使用量削減
  - デマンドシステムを利用した電力の見える化
  - 事務所・現場等の昼休み時間の消灯
  - 空調設備を定期的に清掃・点検する
  - 空調設備の過剰使用をさけ適切な温度を保つ
  - 昼休み時、事務所の空調を切る
  - トイレ不使用時の電気の消し忘れ撲滅
  - 作業を離れる際は電気設備のON・OFFをこまめに行う。
  
- ②ガソリン・軽油使用量の削減
  - 燃料給油・走行距離数のチェック表を作成・記入する
  - 急発進急加速の禁止を遂行する
  - オイル交換等、定期的な車両の整備を行う
  - 効率的な配送ルートを計画・実行する
  - 空気圧のチェック
  
- ③一般廃棄物の削減
  - ミスプリント等の裏面利用
  - ごみの持ち帰り推進
  
- ④産業廃棄物の削減
  - 廃ダンボールを業者に引き取ってもらう。
  
- ⑤水使用量の削減
  - 小まめな開閉(流しっぱなしにしない)
  - 節水の啓蒙活動
  
- ⑥化学物質使用量の削減
  - 社外へ依頼できる脱脂製品は社外へ依頼する
  - プレスオイルの変更(揮発性の高いオイルへの変更)
  
- ⑦環境配慮製品
  - クロムフリー材への切替提案



株式  
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

## V 環境活動の取組結果の評価・次回取組内容

### (1) 環境への負荷低減や管理への評価

- ① 作業場の電気を一部LEDに変更しましたが思う様に電力が下がらなかった。  
外部委託していた加工品を内作へ変更したのも要因の一つである。
- ② ガソリン、軽油の使用量については一昨年度から燃費向上の取り組みをしてきました。  
営業車の車種変更により燃費が落ちましたがエコドライブ、急発進の抑制、削減  
をする事により予想以上の良かったと思う。
- ③ 新聞紙などの梱包資材(緩衝材)の量が増加している。仕入部材の中の緩衝材が  
入荷毎に大量に来るのも原因の一つで得ある。  
ごみの持ち帰り、弁当持参など、従業員に再周知して削減していきます。
- ④ 水使用量については昨年から125.9%と増加してしまいました。  
基準も新たに設けましたが節水の周知・喚起が上手くできなかったのが原因と  
考えられます。
- ⑤ 化学物質使用量削減についてはトリクレンの再生品使用を継続できました。  
新規製品がプレスオイルNGの為、受注増の影響で大幅に増加してしまった。
- ⑥ 本年度もクロムフリー材の提案ができ鍍金量は変化がありませんでした。

### (2) 環境マネジメントシステム導入の評価

法規制への対応や環境への配慮及び電力使用量、燃料使用量などの  
データをとりに見える化をして今後の環境活動への意識の向上に繋げる。

### (3) 次年度の取組内容

今年度の取組内容を引き続き実施するとともに、まずは本年度の数値を維持する  
事が出来るように取り組む。



株式  
会社

石崎製作所

ISHIZAKISEISAKUSHO

## VI 環境関連法等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

①適用される主な環境関連法等の遵守状況の確認及び評価  
環境管理責任者により問題ないことを確認した。

### ②違反・訴訟等

2018年度において環境関連の違反、訴訟等は過去3年間ありません  
なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去ありません。

## VII 代表者による全体評価と見直しの結果

2018年度は新たに基準年を設定して二酸化炭素排出量を低減させる事を目標に取り組んできました。その結果、「二酸化炭素排出量」は目標を達成しましたが、その他の項目はすべて増加しましたので、その原因を究明して2019年度は目標値の達成に努めます。

特に、特需品の生産量増加に伴い設備稼働が増加して電力使用量が増えているのが現状です。

また、一般ごみの量が増加している原因は仕入部材の過剰梱包(養生)など増加している事が影響しているようです。取引先様に協力をしてもらいながらゴミの排出量も抑制していきます。

なお、活動として評価できることは、全員参加の活動として「5S改善活動」「安全衛生活動」をおこない安全で効率よく作業が出来る環境をみんなで作っています。

チームによってミーティングの内容に濃淡があるため、これを均一な活動になるように推進し、従業員の意識を更に高めて行きます。

以

上